

2 がん対策の推進

◇がんに関する情報提供と普及啓発

本健康づくり行動計画推進協議会委員の小野副会長のご協力により、がん予防教室として「女性のためのがん検診講座」を開催しました。（別紙の報告書のとおり）

◇がん検診精度管理について

【プロセス評価より】

平成23年度の新宿区のプロセス評価等一覧シートの評価結果のとおり、子宮がん検診の課題は、次の3点が挙げられます。

- 一点目に、検診受診率を上げること
- 二点目に、精検受診率を上げること
- 三点目に、精検未把握率を下げること

今年度は、上記の三点目の課題に対し、一次検診で「要精検」と判定された方が二次検診（精密検診）をどれだけ受診されたかを把握する「精検把握率の向上」のため、下記の追跡調査を実施しました。

【調査結果より】

子宮がん検診において、精密検査を受けたかどうかわからない未把握件数208件に対して、全件調査を実施。その結果、一次医療機関から194件の調査回答が得られた。

〈194件の回答内訳〉

- ・受診した：81件
- （異常認めず20件、がん（疑い含む）3件、がん以外の疾患41件、結果不明17件）
- ・不明：113件

【調査実績より】

- ・検査の判定結果まで時間がかかることも、把握率が低い一因であると推測される。
- ・二次検診医療機関から一次検診医療機関へ、精密検査の結果が確実に戻るよう、情報連絡の徹底が必要となる。

【今後の取り組み】

検診受診率と精検把握率を共に向上することが、がんの発見率の向上につながる。

今後、乳がん検診についても、医師会の協力を得て2月に同様の調査を実施予定である。また、その他のがんについても、平成26年度以降の実施に向けて、関係機関と協議を行う予定である。

健康教育：がん予防教室
女性のためのがん検診講座
ステキな人生を送るために『がんの早期発見のポイント』

■ 目的

現代医療において、がんは予防できる段階にある。区民に検診を受ける必要性やメリットを伝えることにより、検診受診への意識づくりを行う。

■ 背景

新宿区におけるがんの死亡者数は年々増加し、区民の3人に1人は、がんによって亡くなっている。また全国に比べ、女性の子宮がん・乳がんによる死亡率が高い状況にあるため、定期的ながん検診の受診により早期にがんを発見し、適切な治療を受けることで、がんの死亡率を減少させる必要がある。

■ 開催日時 平成 25 年 11 月 15 日（金） 午後 2 時～4 時

■ 会場 西新宿保健センター 2 階講堂

■ 対象 新宿区内在住及び在勤の女性

■ 内容

がん検診の種類
がん検診精密度管理
がん検診受診率の現況
がん検診受診率向上策
最近のがんの話（胃がん・大腸がん・乳がん・肺がん・子宮がん・肝がん）
がんの治療
がんにならないために

■ 周知方法 広報「しんじゅく」、ホームページ、チラシ配布

■ 講師名 小野 良樹 氏
医師 医学博士
東京都予防医学協会理事・保健会館クリニック所長
東京都がん対策推進協議会委員

■ 実施結果と考察

・当日の悪天候にもかかわらず 15 名の方が参加し、40 代、50 代がそれぞれ約半数ずつを占め、この年齢層でのがん検診への関心が高いことがうか

がえる。講演後の質疑応答も活発であった。

- アンケート結果では、内容について「わかりやすく、非常にためになった」といった意見が多かった。また、「今後、がん検診を受けようと思う」と、参加者のほぼ全員が回答した。

- 自由意見欄には「がん検診の重要性が再認識でき、自分の健康を振り返るきっかけとなった」などの意見が多数あり、今回の講演が区民の検診受診の意識づくりに非常に貢献したと考えられる。

新宿区 がん検診 平成 23 年度プロセス指標等一覧シート

東京都がん検診支援サイトにおいて、都内の区市町村ごとに、プロセス指標の状況が掲載されています。平成 23 年度の新宿区のがん検診（子宮がん）の「プロセス指標」についてご紹介します。

【用語の解説】

●**対象人口率（東京都調査による対象者率）**：区市町村が実施するがん検診の主な対象となる人口の割合。（東京都が実施する 5 年に 1 度の調査により算出）

東京都では、区市町村が実施するがん検診の受診率の算出にあたり、対象年齢の住民のうち、職場や人間ドック等でがん検診の受診機会がある人と、入院や療養中等で受診できない人を除いた割合（対象人口率）を用いて受診率を算定しています。

区市町村が実施する
がん検診の主な対象者
(対象人口率)

= 対象者

- ・ 職場で健診受診機会がある人
- ・ 医療の中で検診相当行為を受けた人
- ・ 個人的に検診を受けた人（人間ドック等）
- ・ 入院・療養中等で検診を受診できない人

●**受診率**：がん検診対象者のうち、実際に検診を受けた者の割合

注) 職域検診や人間ドック受診などは含まれない

●**要精検率**：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者（要精検者）の割合

●**精検受診率**：要精検者のうち、精密検査を受けた者の割合

注) 精検結果を把握できていることが前提である。

●**精検未受診率**：要精検者のうち、精密検査を受けなかった者の割合

●**精検未把握率**：要精検者のうち、精検受診の有無がわからない者、及び（精検を受診したとしても）精検結果が正確に把握できていないものの割合

●**陽性反応適中度**：要精検者のうち、がんが発見された者の割合

注) 対象者が 1 万人未満の地域は、変動が大きくなるため参考値とする。

●**がん発見率**

がん検診受診者のうち、がんが発見された者の割合

注) 対象者が 1 万人未満の地域は、変動が大きくなるため参考値とする。